

はたちのつどい 輝かしい未来へ

「はたちのつどい」が1月12日(日)、文化福祉センターで開催されました。廣坂琉ノ丞さんがはたちの誓いを、廣瀬友愛さんがお礼の言葉を述べたほか、学生時代の懐かしい写真や恩師からのメッセージを集めた記念映像が上映され、参加者は旧友との再会の時間を楽しみました。



喜ぶ姿を励みに これから



船山 友鈴さん

俱知安町で生まれ育ち、現在は、株式会社高橋牧場ミルク工房（二セコ町）で働く

「羊蹄太鼓を小学生のときにしていた。当時は覚えるのがとても大変でしたが、楽しかった記憶があったので、式典で久しぶりに演奏を聞けて、懐かしさを感じました。」

「仕事で大変なときに相談に乗ってくれて、いつも支えてくれてありがとう。今度、家族を温泉旅行に連れて行って、一緒にゆつくり過ごしたいと思っています」

「20歳を迎えて？
「後輩を指導する立場になったので、もっと責任感を持ち、周囲から信頼される人になりたいと思います。また、思い立ったらすぐに行動してしまうことが多いので、時には考えて行動できる余裕を持ちたいと思います」
俱知安の思い出は？
「羊蹄太鼓を小学生のときにしていた。」

「今、家族に伝えたいことは？
「仕事で大変なときに相談に乗ってくれて、いつも支えてくれてありがとう。今度、家族を温泉旅行に連れて行って、一緒にゆつくり過ごしたいと思っています」
「お菓子作りが好きで、作ったお菓子を家族や友だちが『おいしい』と食べてくれることがうれしいです。次は、新しいお菓子にも挑戦して、もっとみんなに喜んでもらいたいです」

